

入選

澤田 莉奈(さわだ りな) みなみ野君田小 5年生

作品名:「だいじょうぶ3組」を読んで

図書:だいじょうぶ3組

私がこの本を選んだ理由は、私と同じ5年3組の生徒と先生の話しだからです。作者の乙武洋匡さんは両手両足が短いしょうがいを持ち、電動車いすに乗っています。幼なじみである介助員の先生と一緒に小学校で先生を務めた体験をもとに書いたお話しです。

5年3組は個性豊かな生徒28名で、クラスでおこる色々なトラブルを乗り越えていきます。私は、自分もクラスの仲間みたいに悲しくなって泣いたり、楽しくて笑ったりできました。

私の好きな場面は、2つあります。1つ目は、先生にしょうがいがあるので、高尾山の登山遠足に行くことができないと知り、クラス全員が「先生と一緒にいきたい。」と署名をします。なるべく負担の少ない遠足コースも考えた計画書も作成して、校長先生に見てもらいます。自分達の考えを形にして、校長先生に意見する、その行動力は、すごいなと思いました。みんなの願いと先生方の理解のおかげで、遠足に行けることになり、本当によかったと思いました。

2つ目は、遠足に行く当日のお話しです。前日に雨が降って坂道がぬかるんでしまい、先生の電動車いすでは登れません。介助員の先生とクラスの男子が協力して車いすを押しながら登ります。女子は荷物を交替で持ってあげて「先生を頂上まで連れていこう」と、クラス全員がひとつになっていく。クラス1巨漢で優しい性格の山部君が加わり、頂上まで登りきった場面は感動しました。

私はこの本を読んで、手足の短い先生でも生徒と向き合い、本気でぶつかれば分かり合えると知りました。しょうがいがある人、ない人も関係なく、助けてもらいながら自分の夢を追いかければ、かなえられると思います。5年3組の生徒は、先生の手足が短いことで自然と助け合える優しいクラスになりました。私も、困っている人がいたら手をさしのべることが当たり前になれる人になりたいです。

最後の授業で金子みすゞの「わたしと小鳥とすずと」を学習します。詩の内容に

合わせて、「わたしは〇〇だけど、〇〇だよ」と考えます。できないこと、不得意なことがあっても、できること、得意な事、自分なりの良さがあり、それを個性と言う。5年3組の先生へのメッセージは、「先生には手も足もないけれど、わたしたちには最高の先生だったよ」とありました。私は、しょうがいを持っていても、その人の良さがあると学びました。見た目には分からないしょうがいもあります。みんなとちがうこと、同じようにできないことも個性として受けとめられる人になりたいです。不安そうにしていたら、気が付いてあげて、この先生のように「だいじょうぶ、だいじょうぶだから。」と言って、味方になってあげたいと思います。